

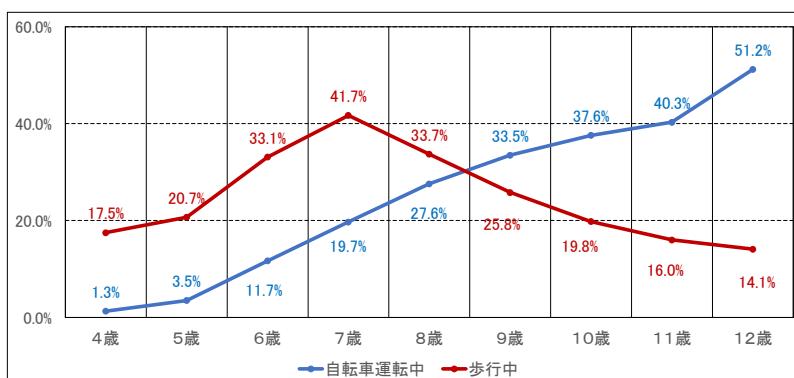
子どもが自転車に乗り始めたら 保護者としての指導とは

一般財団法人日本自転車普及協会 学芸員

谷田貝一男

幼児・児童でも
自転車に乗っているとき
交通ルール違反をして相手に
ケガを負わせてしまった
特に高齢者は大きなケガとなる場合が多い
↓
幼児・児童でも過失責任は免れない
保護者が責任を負う
↓
幼児・児童の行動特性を確認しましょう
交通ルールと一緒に学びましょう

幼児・児童 交通事故の原因 2017年



	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳
自転車同乗中	9.4%	9.3%	3.9%	1.3%	0.7%	0.5%	0.2%	0.2%	0.2%
自動車同乗中	71.5%	65.8%	51.0%	36.9%	37.6%	39.7%	41.8%	42.8%	34.0%

①幼児・児童の行動特性

動き出したら周りを見ない・止まらない



②大人も守らない交通ルール

信号を無視する

クルマが来ないから安全

自分は大丈夫



歩行者も自転車も一時停止しない

いつも通る道だから安心

通行量が多くない



歩行者が左側通行する 自転車が右側通行する

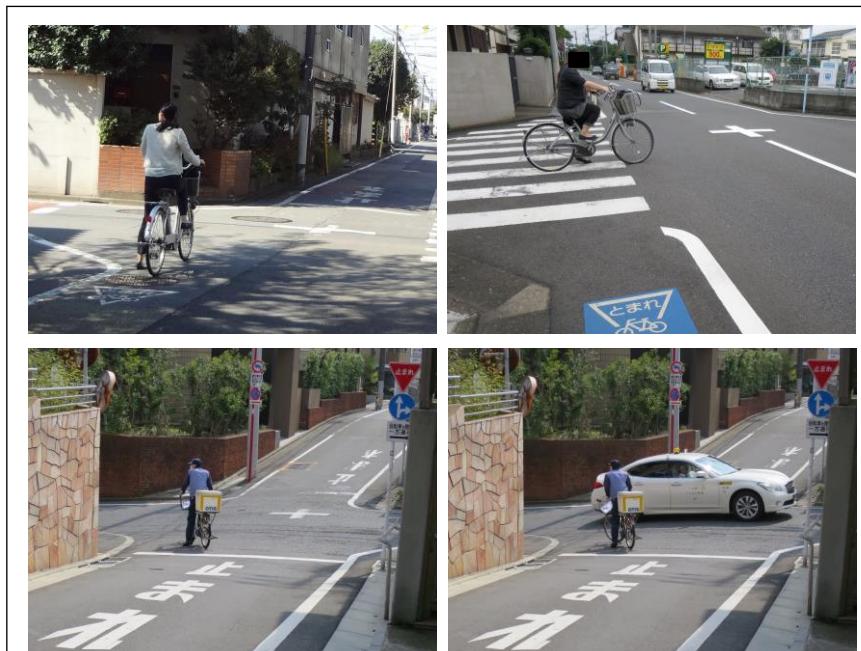
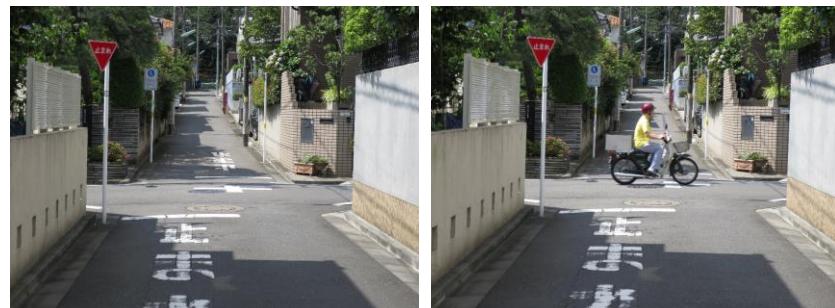
みんなと同じだから

目的地に近いから 早く行けるから



③事故を起こさない・巻き込まれないために 交差点で一時停止 左右の確認

歩いているときに習慣をつける
左右を確認しないときの危険を教える



歩道を通過するときは歩行者優先

歩行者にケガを負わせたら 100%過失責任が問われる

歩行者の脇を通らない 押して進む
スピードを出さずにゆっくりと



親子で走るときは子どもが前

子どもの状況がわかる
声をかけることができる
子どものスピードに合わせられる



④子どもが自転車に乗る前に確認すること

ヘルメットをかぶらせる



サドルにすわったとき 両足が地面に着く



